

◆宮城県では、H27関東・東北豪雨の経験から僅か4年後に令和元年東日本台風が発生し、観測史上最大の降水量を記録、広範囲において甚大な被害が発生した。
◆豪雨災害の頻発化・激甚化の対応として治水対策の更なる強化が必要となり、洪水被害の防止・軽減に向けた宮城県としての「治水対策の在り方」を検討した。
◆近年の豪雨災害や今後予想される施設規模・能力を超過する洪水の発生に備え、流域全体で協働する治水対策を推進する。氾濫しづらいこと、氾濫しても被害を最小化・早期復旧できることを目標に、今後の治水対策の基本方針を「持続可能な地域社会とするため、氾濫をできるだけ防ぎ、被害対象を減少させ、被害を軽減するよう、地域全体で備える」とする。

基本方針： 持続可能な地域社会とするため、氾濫をできるだけ防ぎ、被害対象を減少させ、被害を軽減するよう、地域全体で備える

p.5

※ページ番号はスライドの番号

●宮城県の治水対策を進める上での問題点 p.5

- 気候変動に伴う異常気象・治水安全度の将来的な低下
- 河川整備水準の進捗
- 既存河川管理施設の更なる有効活用
- 洪水情報空白地での被害
- 既往システムの脆弱性
- 既往施設の維持管理コスト
- 将来的な人口減少・高齢化
- 低平地への人口集中

宮城県における治水対策の在り方 p.6,p.10

- ① 将来の降雨量を踏まえた計画作成
- ② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化
- ③ 河道能力を十分発揮するための適切な維持管理の実施とダム施設の適切な更新
- ④ 既存ダムの治水機能の強化
- ⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化
- ⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

●課題解決の対応方針

◆氾濫をできるだけ防ぐための対策 p.18

- ① 将来の降雨量を踏まえた計画作成
- ② 河川(ダム)整備の更なる加速化
- ③ 河道能力を十分発揮するための適切な維持管理の実施とダム施設の適切な更新
- ④ 既存ダムの治水機能の強化
- ⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

◆被害軽減のための対策 p.20

- ⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化
- ⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

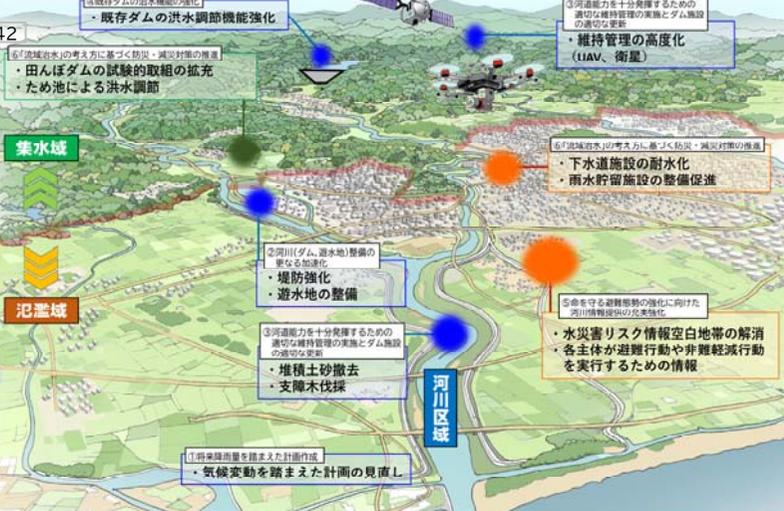
◆被害対象を減少させるための対策 p.19

- ② 河川(ダム、遊水地)整備の更なる加速化
- ⑤ 命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化
- ⑥ 「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進

●『速やかに実施すべき施策』と『段階的に実施すべき施策』に分類

項目	実施目安	実施タイミング	実施内容	実施状況
●氾濫をできるだけ防ぐための対策	速やか	5年	1) 将来の降雨量を踏まえた計画作成	進行中
●被害軽減のための対策	速やか	5年	1) 河川(ダム)整備の更なる加速化	進行中
●被害対象を減少させるための対策	速やか	5年	1) 河川(ダム)整備の更なる加速化	進行中
●命を守る避難態勢強化に向けた河川情報提供の充実強化	速やか	5年	1) 河川(ダム)整備の更なる加速化	進行中
●「流域治水」の考え方に基づく防災・減災対策の推進	段階的	10年	1) 将来の降雨量を踏まえた計画作成	進行中

●宮城県の治水対策の在り方(イメージ)



●令和元年台風第19号を踏まえた今後の治水対策の在り方検討会の位置づけ



p.47